鴻島ニュース

第8号
―1999―
中央地区
自治会
広報委員会

ごあいさつ

中央地区自治会長　長瀬　直

新緑のまぶしい季節となり、会員の皆様におかれましては益々ご健勝の事とお喜び申し上げます。

5月9日の第8回総会におきまして、図らずも会長の再任を受け、会員の皆様の更なるご協力の基に会の運営に微力ながら励んで参ります。

さて、鴻島別荘も11年を経過する年月となりました。今後心配される事は、道路、水道等、自治会で出費が必要となるメンテナンス費用の増大が懸念されます。

道路ひとつを取って見ても修理費用を個人負担するには限度があり、公然的にも会員相互扶助となる自治会運営が重要な事と考えています。その為には今後共に益々自治会活動に皆様の絶大なるご協力を宜しくお願い申し上げます。

総会報告

第8回鴻島中央地区自治会定時総会が5月9日に開催されました。

出席者及び委任状をいただいた方で108名（76・05％）となり、総会は成立致しました。ですが今回も30数名の方々から回答を頂いておりません。自治会に対するご協力を再度お願い致します。

総会は、議長に会長の長瀬氏を選出して始まりました。平成10年度の行事報告、会計報告があり了承されました。役員選で会長の再任と全役員の再任が決まりました。又、新たに役員として、松井氏と井上氏の2名の方が推薦され、承認されました。続いて会計案、事業案が提示され承認されました。（別表）

又、今回は会員の方より年会費等について意見が郵送され、総会に諮りましたが、従来通り三万円のままということが出席者全員の一致で承認されました。只、今回の案内状に役員会で作った予算案、事業案、会費請求書を同封しましたが、これは大林地区の総会が常に出席率70％もあるそうで、中央地区もその手法をそのまま取り入れたものです。会員の皆様には、役員会だけの決定事項とご理解された面もあり、説明不足を反省しております。あくまで役員会ではたたき台を作ったのみであり、全ては総会で決められるものです。又、会員の皆様も出来るだけ総会に参加して下さい。堅苦しい総会ではございませんので、会員同士交流をする気持ちで集まっていただけたらと思います。

又、テニスコートの補修については事務局で法務局に行き、謄本等調べた所、複雑な権利関係もあって、一部タッチアップ程度の補修と決まりました。この件も会員の方より利用者だけで集金するという意見が郵送されましたが、実務上集金等を誰が管理するのか等、難しい意見であったと思います。又、出席された会員の方より道路案内を作ってはどうかと意見が出されましたが、予算の都合上、会員宅地図を制作して会員の方々にお配りする事に決まりましたので同封致します。会員宅を訪ねる人が、連休などたまにおられましたのでご利用下さい。

又、日生町よりゴミの出し方に対する苦情が報告された件について、緊急連絡のハガキを会員全員に至急送付する事となりました。皆様のご協力をお願い致します。又、今秋も好評であった底曳きを再度やる事となりました。皆様の多数の参加をお願い致します。

以上のような事柄で、2時間の討議検討後、総会は終了しました。会よりの弁当を講堂で食べる方、持ち帰りの方等、和やかな総会となりました。

会計報告　削除

事務局よりお知らせ

本村地区のゴミ箱の位置が変わります。今までは定期船のりばの前にありましたが、大林地区に向かう方向の空き地へと移ります。注意して下さい。

会員の方が放し飼いの犬にかまれました。（地元島内の飼い犬でした）町に苦情を言って近々放し飼いを無くす方法を取って頂く予定です。

総会の案内状送付時に自治会費の納付書を同封しています。総会で金額が承認されたので、会費の納入を出来るだけ5月中にお願いします。

昨夏、蚊を除くため浄化槽に、薬品を2ヶ所取付けました。夏休みに来宅の折には少しは良くなっていたと思います。1軒当たり一六〇〇円ですが、少しでも良くなればと思います。今年も総会に諮り、取り付けることになりました。

新聞だより

同好会のご案内

現在、左記の同好会が活動しています。

会員の皆さんの親睦目的につくられた会です。上手も下手もありません。楽しい一時を過ごしましょう。

皆さんの参加をお待ちしております。

○土いじりの会

備前焼が隣町なので窯元で教えて頂きながら、童心にかえり、泥遊びはいかがでしょうか。

0794・35・0466
森田迄（会社）

○魚釣りの会

磯釣り、船釣りを楽しみながら、自慢話に花を咲かせてみませんか。

樽家紀之

○ゴルフの会

上級者はもちろん、初心者の方も大歓迎です。年に2～3回のコンペで練習の成果を競ってみませんか。

06・376・2470
長瀬迄（会社）

赤松一族―亡（ほろ）びの美学

かつて赤松一族の末裔たちが多くの“赤松本”を残している。
著者が思いのたけをぶつけた『嘉吉（かきつ）の乱始末記』は
まさしく、八瀬氏の“赤松本”といえる。

『嘉吉の乱始末記』は“逆賊”とされる赤松氏の名誉回復と再評価を試みた労作である。

多数の資料を渉猟しながらも、これらを比較検討して事実を解明する堅苦しい研究書ではない。敢えて物語性の強い資料を多用し、本書が『始末記』という読み物に仕上がっている。これは著者、八瀬氏の経歴のせいでもあろう。

氏は歴史の研究家ではなく、自身のルーツ調べの過程で赤松氏に関わり、傾倒の末、本書が生まれたのである。赤松氏の歴史等に関心を持たれる方にとって、格好の一冊といえよう。

解説＝寺本躬久

嘉吉の乱始末記
【赤松一族滅亡の歴史を綴る】
定価1,800円
（本体1,715円）
発送費500円

○お問い合わせ先
〒673-0853　明石市朝霧山手町5-2　TEL.078-918-2538
八瀬　久
※お知り合いの皆さんにも是非お薦めください。

★会員でない人に
申し上げます。

自治会活動は会員の負担で行われています。別荘地も11年たち道路の補修や溝掃除も会費でまかなっています。しかし会員外の人たちは何も負担していません。道路や溝や車の撤去や水道の破損も全て会員たちの負担なのです。折角手に入れた別荘も公共性は高いのです。皆様相応の負担をするのが社会のルールだと思います。島を利用するにはぜひ、会員になって頂きたいと思うのですが・・・。

★車両放置は絶対に
やめて下さい。

今季は、車両の撤去を致しません。だんだん増えると通行の邪魔する事でしょう。撤去費用は自治会で負担しています。中央地区で約40軒の人が会員ではありません。皆様の隣近所で会員外の人が車の使用をしている時、その後放置がないかよく注視して下さい。放置がわかれば自治会で注意したいと思います。

★火事の予防のお願い

鴻島では過去11年間の間に5回の火事が起こっています。特に強風が急に吹く事もあり、ゴミや落葉等のたき火は絶対しない様に気を付けて下さい。お互いに注意しましょう。

役員名簿〈平成11年度〉

（会長）長瀬　直
（会計）青野正勝
（監査）寺浦　格・樽家紀之
（事務局）平田文夫
（理事）14人
荻野清志・森田昌夫・森田孝・浅島俊男・米田稔・桑原高己・三田村紘行・丹野嘉子・吉田とし子・岩坂春一・飯田龍平・森啓充・井上蘭子・松井努
（順不動）

魚の繁殖へ人工藻場

日生町沖

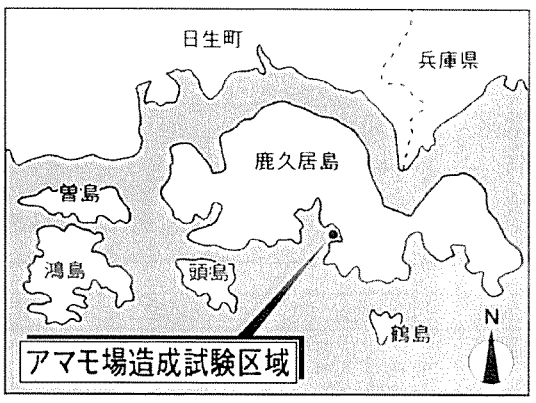
魚類を繁殖、育成する藻（も）場を拡大するため、県は、日生町の鹿久居島沖で大規模な人工のアマモ場の造成事業に着手した。アマモの種を植え付けたマット状の土のうを沈める「土のう式播（は）種法」で取り組む計画で、県水産課は「アマモ場の効果的な造成技術を確立、将来は県内の海域で事業を展開していきたい」としている。

藻場は魚の産卵場や稚魚の生息場所、えさ場になり、一般漁業の五～十八倍の生産力があるといわれる。さらに、COD（化学的酸素要求量）の軽減など水や海底環境の保全にも大きな役割を果たしている。"海の森林"とも呼ばれているが、海岸部の埋め立てなどによって瀬戸内沿岸でも減少が目立っている。

アマモは水深一～一・五メートルの海底に群生する海草。県は昭和五十四年からアマモ場の復元や回復に向けて調査・研究を開始。船上から種をまいて育成に取り組んできた。しかし、種が潮に流されるため、局所的な繁茂にとどまり、民間企業と共同で「土のう式播種法」を考案。

試験区域として実施するのは日生町・鹿久居島の千軒湾。県は今後、人工藻場の規模や効果的に繁殖させる方法を検討し、種を植え付けた一メートル四方のマット状の土のうを数千個沈める。県水産課はさらに、アマモの植生、環境条件について追跡調査し、繁殖のための技術マニュアルを策定。藻場にガザミを放流し定着や育成の観察も行う。

県内海域の藻場は大正時代には約四千三百ヘクタールだったが、埋め立てや海の汚れで昭和五十三年には千三百六ヘクタール、平成元年には九百三十四ヘクタールに減少。藻場のうちアマモが約六割を占めている。



人工藻場が計画されている鹿久居島の千軒湾

海の駅「しおじ」

買った魚を即料理

岡山県日生町漁協（有吉肇組合長）は、買った魚をその場で料理して食べさせてくれる水産直売所を日生町日生の同漁協前に建設した。

新直売所は、明石海峡大橋開通や不況による観光客減に対応し、新サービスで観光客のニーズにこたえ、水産業の多角化推進を図る狙い。

建物は鉄骨平屋瓦ぶき約百八十平方メートル。鮮魚、野菜、水産加工品などの直売部門と三十人収容の食堂部門が入居し、食堂では、刺身や煮付けうどんなど一般メニューを準備。同直売所や同漁協の建物内で開いている「五味の市」などで買った魚やシャコ、エビなどを有料で焼いたり、煮付けなどの料理をし、持ち帰り用もできる。

東南アジアの市場などでは、買った魚をその場で料理してくれるシステムがあり、それが売り物になっているケースはあるが、瀬戸内沿岸では珍しいという。

同漁業では「料理は面倒だが、買った魚を即食べたいのは顧客のニーズだと思う。五味の市は火曜日が休み。新水産直売所とは休みを分け、いつ日生に来ても新鮮な魚が買える体制にしたい」と話している。

頭島活性化に向けて ホームページ開設

いそ釣りゲームや空き家情報

岡山県日生町・頭島の頭島地区活性化推進協議会（吉野敏満会長）は、島独自のホームページをインターネット上に開設した。民宿や空き家情報などのほか、いそ釣りのゲームもできるユニークな内容。同協議会は「島を若い人にもPRしていきたい」と期待している。

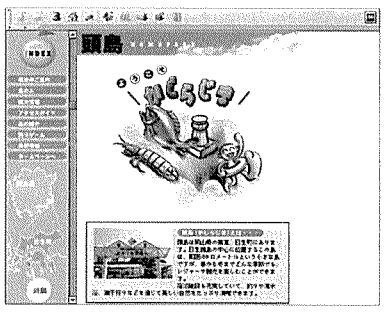
頭島は周囲4キロの民宿と漁業の島。現在百八十二世帯、五百二十五人が住んでいるが、過疎・高齢化が深刻。ホームページ開設は、県の中山間地活性化策定支援事業の一環として町内会、民宿組合、漁協が同協議会を結成し取り組んだ。

内容は、観光のメインとなっている二十軒ある民宿・ペンションの案内、U・Iターンのための空き家情報、恋人を探す島の若者など住民紹介、歴史や観光底引き網、釣り情報などを掲載。チヌ釣りなどが楽しめる簡単なゲームも入っている。

県内では、笠岡市の真鍋島が市のホームページで島を紹介しているが、島独自のは初めてという。

吉野同協議会長は「活性化のためには、島外の若者や観光客にまず島を知ってもらうことが肝心。そのための手段がインターネット。これを機に、島おこしを継続的に続けたい」と話している。

アドレスは「http://www1.herenet.ne.jp/~kashira/」



松原氏が初当選

日生町長選 16年ぶり無投票

任期満了に伴う日生町長選が告示された。立候補の届け出が締め切られた結果、無所属新人で元町職員の松原和也氏（五九）以外に立候補がなく、松原氏の無投票当選が決まった。同町長選の無投票は昭和五十七年以来十六年ぶり。

当選を決めた松原氏は、同町日生の選挙事務所前で支持者らと万歳で当選を喜び、「行財政改革、少子・高齢化、商店街や島の活性化など課題は多いが、町民のみなさんと一丸となり、新しい日生町をつくっていきたい」と抱負を語った。

同町は平成三年に町人口が一万人を割り、高齢化率も二一・七％と少子・高齢化、若者定住が課題。このほか、日生架橋など離島振興、規制緩和により厳しい経営を強いられている内航海運業問題、観光客の減少など二十一世紀に向けての課題は山積している。

'99サンバースフェスティバル

〈日生水産業祭〉　雨天決行

◆とき　6月6日（日）午前9時30分～午後3時
　式典午前9時～午前9時30分

◆ところ　日生港第1工区広場（もやい茶屋前）

ひなビジョン開局

―日生町の自主番組―

日生町が既存のCATV（ケーブルテレビ）ネットワークを使って自主番組の放送を行う「ひなビジョン」（日生町有線テレビ放送）を開局した。

ひなビジョンは、同町が独自に制作する自主番組・スタジオなどの愛称。平成六年スタートした第三セクターのCATV・日生有線テレビ（同町寒河）の一チャンネルを借り受け、当面は同町日生地区（千八百戸）の約千五百戸に番組を流す。

県内では、これまで十七のCATVが稼働し、うち自主放送を行っているのは九つのCATV。ひなビジョンは十番目となる。（県情報政策課調べ）。

スタジオのある町民会館で行われた開局式には関係者ら四十人が出席。田原隆雄町長が「ひなの名は、これからの成長に期待した名前。今後、放送エリアの拡大を図り、高度情報化への対応も進めていきたい」とあいさつした。

番組制作は、町公聴広報課の職員七人が担当。原則的に一時間番組を繰り返し放送するシステムで、山陽新聞夕刊からのニュースや町のお知らせ、企画番組で構成する。

NEW 日生町シンボルマーク

日生町は新しい町のシンボルマークを制定、今年から使用を始めた。

新ロゴマークのコンセプトは「海と人を生かす-日生」とし、人と人が手をつなぎ「H」の文字を形づくっている。色はブルー、グリーン、ピンク、オレンジの4色で、ブルーは海、グリーンは人と人とのコミュニケーション、ピンクは実り・発信・参加、オレンジは交流・共感を表現している。旧シンボルマークが町制三十周年（昭和六十年）に制定され、十年以上を経過したことから更新した、制作費は約百五十万円。今後は封筒などに印刷、町の新イメージをPRすることにしている。